

## 感震ブレーカーを知っていますか？



東日本大震災における本震による火災（全111件）で原因が特定された108件のうち、その過半数が電気関係の着火と言われています。感震ブレーカーを設置して、電気火災を防ぎましょう。

▼感震ブレーカーとは  
設定値以上の揺れを感知した時に、自動でブレーカーを落とし電気を遮断する機器です。

▼感震ブレーカーの種類  
感震ブレーカーには次のような様々な種類があります。ご家庭の状況によって使い分けましょう。

①分電盤タイプ：（内蔵型…約5～8万円、後付型…約2万円）

分電盤に一定の揺れを感知して電気を遮断する機能が付いており、基本的には全ての電気が遮断されます。内蔵型と後付型があります。（工事要）

②コンセントタイプ：（5千円～2万円）  
センサーが揺れを感知し、コンセントの電気が遮断されます。差し込むタイプ（工事不要）と埋め込みタイプ（工事要）があります。

③簡易型：（3～4千円）  
ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落とし全ての電気が遮断されます。（工事不要）

## 防災行政デジタル無線（同報系）を整備しています



防災行政無線（芦野局）

消防団緊急伝達システムが、平成28年5月31日をもってアナログ消防波の使用期限を迎えるため、使用できなくなることから、平成27年度から町内72箇所防災行政デジタル無線に移行する工事を進めています。

現在では、概ね機器の設置が完了しており、5月からの本格的な運用に向けて調整を行っている段階です。4月中には各地で試験放送を実施しますので、ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

なお、これまでは火災の発生時のみサイレンの吹鳴や拡声放送を行っていましたが、運用開始後は火災だけではなく、町からのお知らせや水害、火山噴火などの重大な災害が起こるおそれが著しく大きい場合にも使用することができるようになります。

詳しくは次号でお知らせします。

▼問合せ 総務課総務防災係  
☎72-6901

## 防災のワンポイント 《発災時の行動》

地震発生時、家具類の転倒・落下・移動により負傷するケースは少なくありません。こういったリスクを減らすため、今一度室内の安全を確認しましょう。

### 1 避難経路を確保しましょう。

- ・発災時、すぐに避難できるよう出入口を確保する。
- ・廊下や階段に物を置かないようにする。



### 2 家具等を固定しましょう。

- ・地震発生時に、照明の落下やキャスター付きの家具の移動、タンス等の大型家具の転倒を防ぐ。



### 3 ガラスの飛散を防ぎましょう。

- ・ガラス製の扉、窓などにフィルムを貼る。



### 4 火災などの二次災害を防ぎましょう。

- ・電気製品の転倒・落下や、他の障害物との接触による発火を防ぐ。



## 東京電力株式会社に対する損害賠償請求を実施

請求金額 **69,494,343円**

町はこれまでに、東京電力株式会社が管理する福島第一・第二原子力発電所において平成23年3月11日に発生した事故に伴い、空間放射線量率をはじめとする各種モニタリング調査のほか、農産物の出荷制限、観光業の風評被害への対応や住宅除染など、様々な施策を実施しています。

この事故で生じた被害については、本来、事故の原因者である同社が全ての責任をもって対応することはもちろん、対応に要した費用についても同じく全ての責任をもって負担すべきものです。

このため、町が対応に要した経費（平成25・26年度の人件費）の支払いを求めため、3月10日、事故の原因者である同社に対し、損害賠償請求書を提出しました。

■問合せ 総務課 ☎72-6901